



シェルドーム バーチカルタイプ共通

日本語補足説明書



写真はSH-RO254015です。

共通モデル(型番)

SH-RO2020	SH-RO205015
SH-RO64	SH-RO206015
SH-RO46	SH-RO253015
SH-RO44	SH-RO254015
SH-RO203015	SH-RO255015
SH-RO204015	SH-RO256015

この度は本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
このシェルターは短時間での組み立てと最小のメンテナンスを誇る、コストパフォーマンスに優れた製品です。
本製品を正しく安全にお使い頂くために、設置前に必ず付属の英文説明書及び、本補足説明書をお読みください。

組立・使用上の注意及び禁止事項

※組立ての前に「⊘危険・⚠注意」を必ずお読みください。

 危険	この警告を無視して誤った組み立て方や使い方をすると、人が死亡、または重傷を負う事故が想定される内容を表しています。
<p>《組立時》</p> <ul style="list-style-type: none">● シェルターの設営には、重い部品の取り扱いやその下での作業が必要となりますので、ヘルメット等で頭部の保護をして作業を行ってください。● シェルターを設営する土地の地下にガス管や水道管等が通っていないか確認して下さい。設営の際の危険性に加え、シェルター設営後に移動が必要となるリスクがあるため、設営前に確認を行ってください。● 風の強い日、雨や雪の日の設営は、大怪我に結びつく恐れがありますので、悪天候時には設営しないでください。● 雪がまとまって落ちる恐れのある場所、雪が吹溜りになる場所、風当たりが特に強い場所には危険ですので、設置しないでください。● シェルター内や周りでの火気使用は、火災の原因、一酸化炭素中毒等、生命をおびやかす恐れがありますので、絶対におやめください。また火災等の原因となりますので、火気から離れたところに設営してください。● シェルターを設営するとき、脚立や足場などが必要となる場合があります。安全ベルトやハーネスを常に使用してください。● シェルターの骨組みは人間の重量に耐えられる設計ではありません。 <p>《使用時》</p> <ul style="list-style-type: none">● 台風、暴風雨、落雷等の異常気象が予想される場合は、災害に備えて一時的にシート部を外したり、シェルターの撤収を行ってください。● 悪天候の際はシェルターの移動やシェルターの内部、及びその周りでの作業を控えてください。● 雪の多い地方で、雪に埋もれた場合等は押し潰される危険性がありますので、絶対にシェルター内に入らないでください。除雪を行ってから安全を確認の上お入りください。● シェルターは防火仕様ではありません。内部での火気の使用はもちろん、周りでの火気使用は厳禁です。● シェルター内で電気製品を利用する際、野外用に設計された電気製品を使用してください。(ハンダなどの電熱製品は使用不可) また漏電等を起こさないよう注意してください。● シェルター内に危険物を保管しないでください。● パイプ等にぶら下がらないでください。また危険ですので、シェルターの上には絶対に上らないでください。	
 注意	この注意を無視して誤った組立て方や使い方をすると、事故やケガといった人的損害、又は物的損害の発生が想定される内容を表しています。
<p>《組立時》</p> <ul style="list-style-type: none">● シェルターを設置する前に、部品が揃っているか確認してください。● シェルター設営は必ず十分な人員で行ってください。● シェルター設営の際は安全の為、安全帽、グローブを着用し、作業に適した衣類で作業をしてください。● シェルター設営の際は周囲に十分に注意してください。近くに人や物がいないことを確認してください。● シェルターの設置は水はけが良く、できるだけ平らな場所を選んでください。また、風の影響を受けにくい場所をおすすめします。● がれき等シェルターを傷つける恐れのあるものはあらかじめ取り除き、整地してから設営してください。● シェルター本体はアンカーで確実に固定してください。風で飛ばされたり雨水が溜まって思わぬ事故につながる場合があります。● シェルターを設置する場所によっては(コンクリート面等) 付属の土用アンカーが使用できない場合があります。コンクリート用アンカーなどを別途ご用意の上設置してください。● 本取扱い説明書を良くお読みになってから設営をしてください。● シェルター設営の際、必ず法規に従って設置して下さい。法規に関しては各自治体にお問合せ下さい。 <p>《使用時》</p> <ul style="list-style-type: none">● シェルターが破損した場合は速やかに使用を中止してください。● 出入口を閉める際はシェルター内部に人がいないか等、安全確認してください。● 出入口ファスナーは強引に閉めると破損する恐れがあります。● テントの張り、筋交いの張り、ボルトの緩み、アンカー、出入口ファスナー等定期的に点検を行なってください。	

その他、シェルターの設営及び使用時の事故、損害に関する補償はいたしかねます。自己責任の元、使用してください。

設営前に

パーツの確認

- ・設置前に必ずパーツの確認をしてください。
- ・万が一不良品や不足パーツ等ございましたら設置前にご連絡ください。
- ・輸入品につき、輸送時につく傷などがある場合がございます。ご理解の上ご利用下さい。

補足説明書について

- ・パーツ番号、製品サイズは英文説明書を参照して下さい。
- ・本説明書は英文説明書と異なる設営方法で記載されております。どちらの方法でも設営可能です。設営設備等の環境によりお選び下さい。
- ・本説明書上で使用されている図や画像と実際の製品とはサイズ等が異なります。パーツ数量パーツ番号については付属の英文説明書を参照下さい。

設営場所について

- ・雪が溜まりやすい場所には設置しないで下さい。また常に強風にさらされる場所にも設置しないで下さい。
- ・設営前に設営面は必ず水平にしてください。水平でない場所に設置すると製品本来の耐久性を発揮する事ができません。
- ・本体組立前に必ず基礎を整備して下さい。
- ・コンクリートアンカーは付属していません。コンクリート面に設置する場合は別途コンクリートアンカーをご用意下さい。

設営に必要な工具、機材など

- ・テントシート設置にはモデルによってはクレーン車等をご用意下さい。
- ・高所作業がありますので、足場、高所作業車をご用意下さい。
- ・以下の工具等をご用意いただくとより迅速に作業が行なえます。
 - 13mm式めがねレンチ●13mmソケットインパクトレンチ●シノ付きの13mmラチェット●ゴムハンマー●14mmスパナ
 - モンキーレンチ●M8x1.25タップ●その他現場道具
- ・作業時には手袋、ヘルメット、安全帯を着用し、安全な服装で行なってください。
- ・輸入品につき、ネジ穴が合わない場合があるので、電動ドリル、鉄用ドリル刃、金やすりなどをご用意下さい。

ベースパイプ設置

ベースとなる角パイプを設置します。図1 aの部分进行測量してそれぞれのモデルの長さに合わせベースパイプを設置します。サイズは英文説明書Base drawingを参照して下さい。

【注意】

- ・図1のようにベースパイプを左右で180度回転させたように設置します。(図1 赤色部分参照)
- ・端にゴムキャップが付いているベースパイプが端になります。
- ・ベースパイプに付属するラチェット固定用ステーは内側を向くように設置してください。

POINT

●横幅サイズについて

ベースパイプの横幅サイズは英文説明書サイズ推奨ですが、張りが出るため出入り口のジッパーがの開閉が硬くなります。

頻繁に出入りする使い方をする場合は図1 aの長さを少し狭くして下さい。(最大20mm) 多少風によるバタつきがありますが、ジッパーの開け閉めがスムーズになります。

図2のようにベースパイプを並べたら付属のネジでベースパイプを連結してアンカー穴を掘ります。アンカー穴にモルタルを流し込みアンカーを固定します。モルタルサイズは図3を参考にして下さい。図3のモルタル量はメーカー推奨値です。アンカーが固定される前にアーチを設置するとアンカーが動いてしまいますので、必ずモルタルが固まってから設置して下さい。

※コンクリート面へ設置する場合は付属のアンカーは利用できませんので、別途コンクリートアンカーを購入して施工して下さい。(図4)



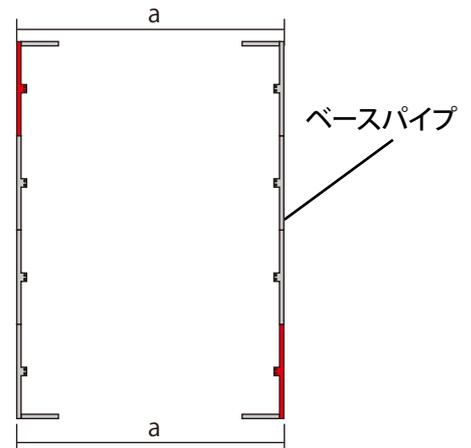
設置例

図4



図1

上面から見た図

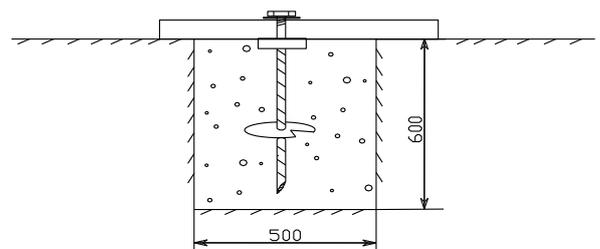


モデルにより、ベースパイプのアンカーポイント(穴)の箇所が異なります。設置環境に合わせてベースパイプに穴あけしてアンカー箇所を増やして下さい。

図2



図3



ベースパイプ
アンカー穴 ϕ 18mm

出入口アーチの作製

出入口のアーチを設置します。平置きで英文説明書を参考にパーツを組み付けます。パイプにキズがつかないようにあて木などして下さい。(図1、図2)

組立の際、パイプ側にネジ穴がある場合、塗装等が付着している場合がありますので、M8x1.25のタップでねじ山を整えるとスムーズです。無理に締めるとネジ折れが発生する場合がありますので、ご注意ください。

※注意

出入口鳥居部分(矢印)のリング部は内側を向くように設置します。モデルによってはリングが付属していない場合があります。



図1

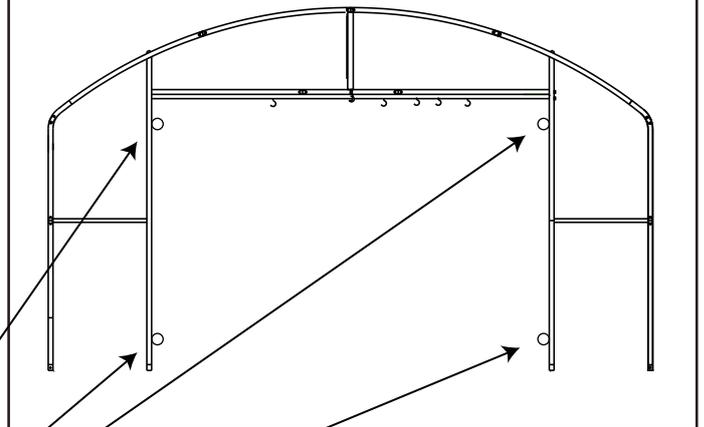


図2



出入口のアーチが完成したら、ベースパイプにはめ込みます。(4箇所)ベースパイプはめ込み口(図4)にはボルト用の穴が空いていますのでパイプと差込み口の穴を合わせて付属のボルトを差し込んでください。差し込んだパイプは横パイプを接続するまで、倒れないようロープで固定してください。

重量物の為、クレーン使用を推奨。(図3)

図3

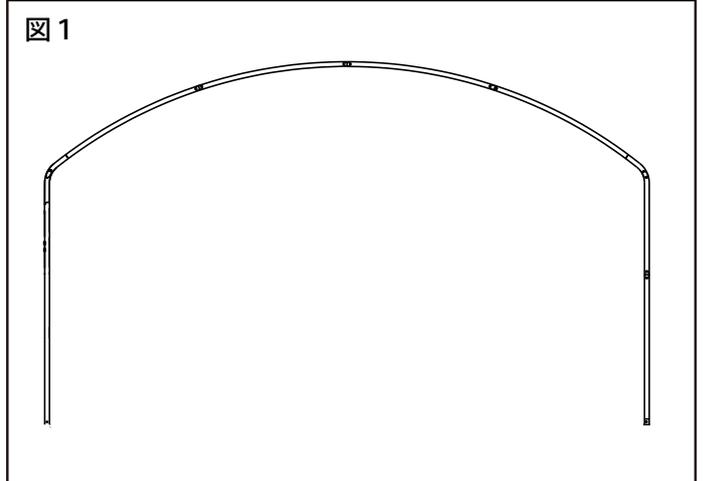


図4



アーチの作製

アーチを設置します。平置きで英文説明書を参考にパーツを組み付けます。(図1)



出入口のアーチが完成したら、アーチを立て、(図2)ベースパイプにはめ込みます。ベースパイプはめ込み口(図3)にはボルト用の穴が空いていますのでパイプと差込み口の穴を合わせて付属のボルトを差し込んでください。

※注意

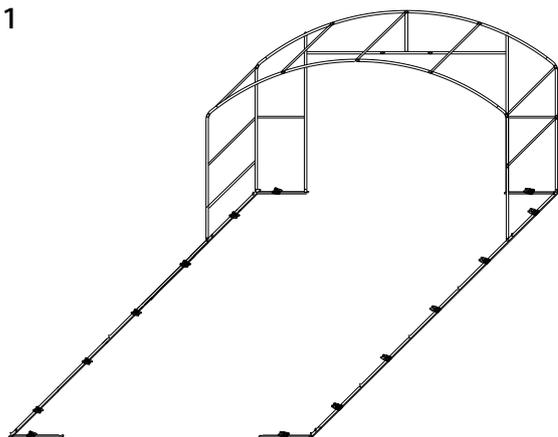
差し込んだパイプは横パイプを接続するまで、倒れないようロープで固定してください。



アーチの接続

先程組み付けたアーチを横パイプで接続します。位置によってパーツが異なりますので、英文説明書を参照して下さい。(図1、図2)

図1



同様にアーチパイプを組み、横パイプで組み立てます。(図2、図3)
高所での作業時は足場や高所作業車を利用して下さい。

この時点でボルト&ナットを本締めして下さい。

図2

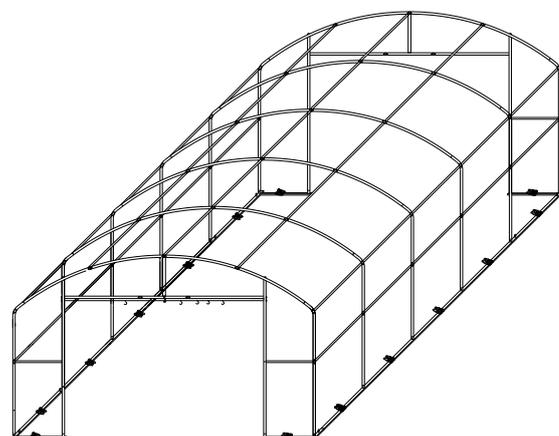


図3



ワイヤー筋交いとラチェットタイダウンの設置

ワイヤー筋交いを取り付けます。図1の様にルーフ用とサイド用の2種類取り付けます。

図1

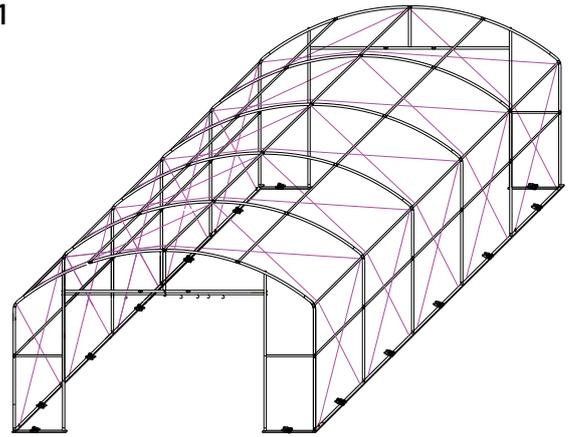


図2

バングルを締め付けてください。強引に締め付けるとワイヤーが切れたり、カシメ部分が破損する恐れがあります。(図2)



ベースパイプにテント張り用のラチェットタイダウンを接続します。(図3)

図3



メインシート設置

シートの表面、裏面を確認します。左右どちらかにテントシート置き、裏面のポケットにシート固定パイプを挿入します。(図1)

シート固定パイプにロープなどを固定し、反対側から引っ張り、シートを被せます。(図2)

バランスよく引っ張る為、必要に応じてロープの固定を増やしてください。

左右、前後の位置関係に注意して設置します。

バーチカル60mmタイプのテントシートは重量物の為、人力で困難な場合はクレーン車(推奨)を利用してください。

※注意

- ・テントシートを細い棒などで押すと破損しますので押さないで下さい。
- ・パイプ連結部、ワイヤー筋交いなどに引っかからないよう注意してください。破損の原因となります。
- ・風がある時のシート設置は大変危険です。必ず風が無い時に行ってください。

図1



図2

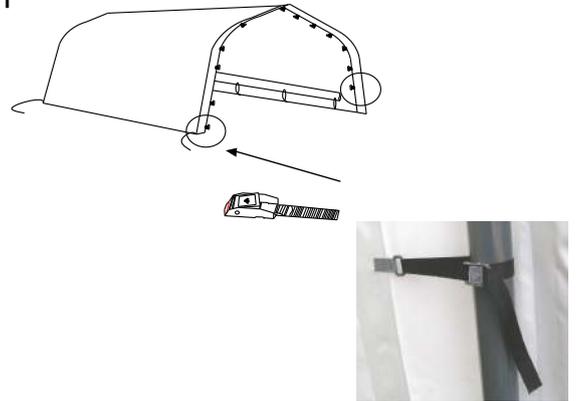


メインシート出入口側固定

①バンド固定(図1)

図1のようにバンドをメインシートの金具に通し、出入口のアーチパイプと接続します。金具の裏面からバンドを通して固定します。バンドを引っ張ると締め付けることが可能です。締め付けが出来なかったり、バンドが緩む場合は通し方が間違っていますので、確認してください。出入口それぞれ同じテンションで固定して下さい。

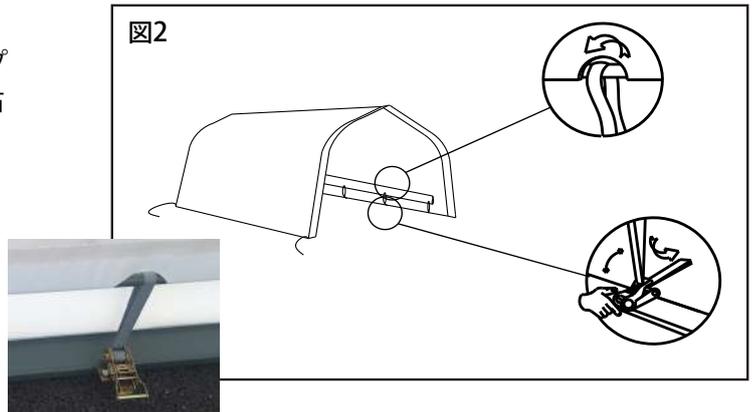
図1



メインシートベースフレーム固定

図2のように付属のバンドをメインシートに通したパイプの袋状の部分に通して、ラチェットで固定して下さい。左右前後均等に締め付けて固定して下さい。

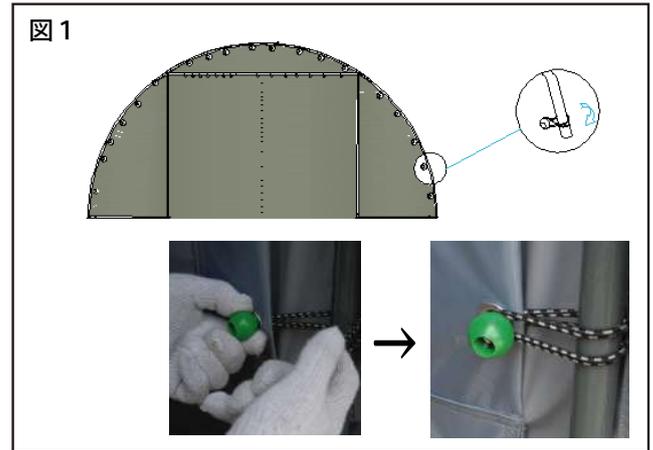
図2



出入口シート設置・メインシート出入口アーチ部絞り

出入口シートを設置します。鳥居部分はテントに付属しているマジックテープバンドで固定します。アーチ部分は付属のボールループを利用して固定します。(図1)

※モデルによっては出入口テントシートが複数に分割されています。

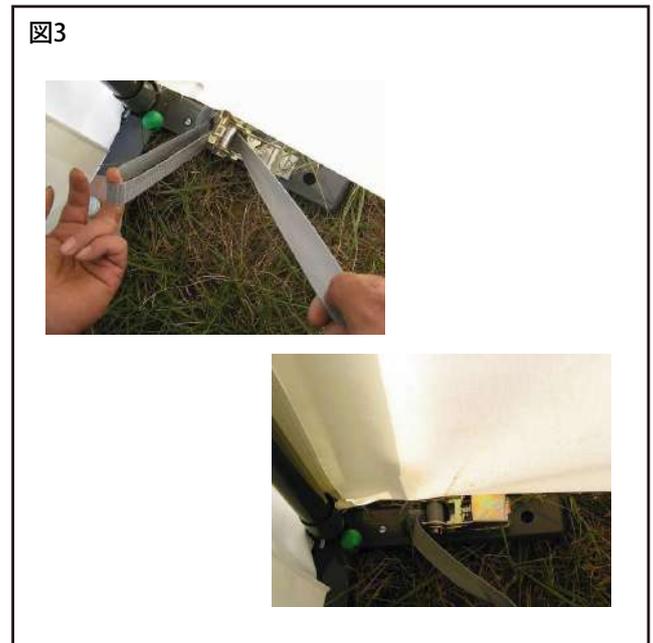


メインシートの出入口アーチ部分を絞り、完全に固定します。(図2)



メインシート出入口アーチ下部に付属している平ヒモを出入口シート下部にあるハトメ穴とドアベースパイプの丸型のステーに通しドアベースパイプに付属しているラチェットに通します。

平ヒモを通した後、ある程度引っ張りさらにラチェットを使用して絞ります。(図3)

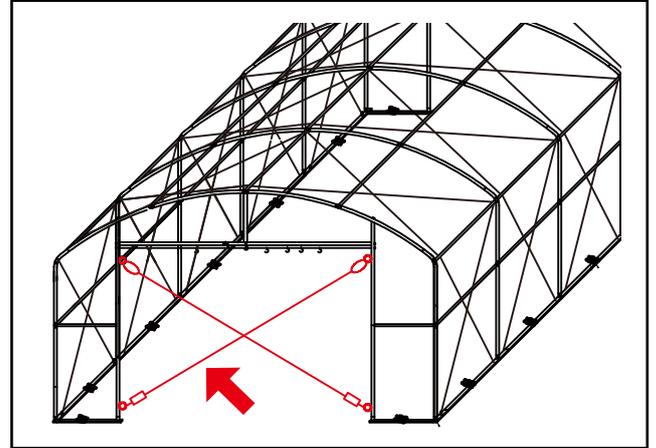


補強用出入口筋交い（任意設置）

補強として出入口に筋交いワイヤーを設置する事が可能です。
台風など強風が予想される際や長期出入口を開閉しない場合などに設置して下さい。
※モデルによっては付属していない場合があります。

出入口のタテ方向のパイプについているリング部分にワイヤーを
かけ、バングルで締め付けます。

2本均等に締め付けてください。締め過ぎるとワイヤーが破損す
る場合がありますので、注意してください。



本体押さえロープ設置（強風時のみ設置）

強風時の補強として本体押さえロープ及びアンカープレートを設置してください。

※テントシートに負担がかかるのでロープは強風時のみ設置します。

※控えロープは耐光性が低い素材ですので、常時設置はしないようにしてください。

※モデルによっては付属していない場合があります。

押さえロープ設置

前後2本のロープは端より300mmの場所で設置し、残りは等間隔で設置してください。

アンカープレートにロープのフックを掛け、本体をまたぐように掛けます。

ロープに付属のラチェットでロープを固定します。

強く固定しすぎると、テントシートおよびフレームに負担がかかりますので、注意して下さい。



アンカープレート設置

・アンカープレートはモデルによって設置数が異なります。本体を均等に押さえる事ができるように設置します。

・付属のアンカーはコンクリート用です。かならずコンクリートの基礎の上に固定してください。（厚さ15cm以上推奨）

・押さえ用ロープの長さを確認しながら、アンカープレートの位置を決めます。アンカープレートは本体ベースパイプより10cm以上離して設置してください。

・振動ドリルを利用してコンクリート部分に穴をあけアンカーを挿入します。（穴径17mm、深さ100mm）アンカーネジのカラーが面一になる場所までアンカーを挿入し、アンカープレートをさし、ネジを回して固定します。（ネジ径19mm）



[注意]

アンカープレート固定用付属コンクリート用アンカーは海外仕様品です。固定は可能ですが、より強固に押さえる場合は日本製のコンクリート用アンカーをご用意ください。

最終確認

- ネジの緩み、締め忘れ
- 筋交いの張り
- アンカーのボルト緩み
- テントシートの張り
- あおり止めロープの張り



上記項目を必ず確認して下さい。

メンテナンスについて

- 設営1ヶ月後にネジの増し締め点検及び筋交い、テントカバーの張り調整を行なってください。その後定期的(3ヶ月に1度程度)に増し締め点検および張り調整を行なってください。強風にさらされた後も同様の点検を行なってください。強風時は危険ですので、絶対に点検を行なわないで下さい。
- ファスナーの動きが悪くなりましたら、ファスナー部分にロウや潤滑スプレーなどを塗ってください。
- フレームの錆が浮き出てきましたら、錆を取り錆止め剤を塗装し、上塗りをして下さい。
- 外部あおり止めのロープの張りは定期的に調整を行なってください。

強風時の対応について

- 強風などの気象が考えられる場合はアンカーの締め付け及びネジの締め付け、テントカバーの張りを確認してください。また、本体押さえロープが付属しているモデルは必ず設置して下さい。
- 猛烈な強風が考えられる場合はテントシートを必ず外してください。

豪雪時の対応について

- 積雪が考えられる場合はオプションの中柱ジョイント(別売り)などを利用して補強などの対策を行ってください。
- 積雪量20cm以下で、除雪(雪おとし)をして下さい。
- 豪雪が考えられる場合はテントシートを必ず外してください。

SHELLDOME 輸入元
有限会社TOSH O
〒509-5401
岐阜県土岐市駄知町1217-5
TEL.0572-55-1400